

## 世界の貧困を僕らが救う！ーフェアトレードで自分にできることー

学校名	三重県四日市市立日永小学校		授業者氏名	竹内 綾音
対象学年 (人数)	小学校6年生(30名)		実践年月 (時数)	2023年 10月～11月 (7時間)
担当教科等	6年生担任(教科担任外国語・書写 他国語 道徳 総合)			
単元名 (活動名)	世界に目を向けて意見文を書こう			
実践する 教科・領域	国語科			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解(○)／文化交流( )／多文化共生( ) B グローバル社会 … 相互依存( )／情報化( ) C 地球的課題 … 人 権(○)／環 境( )／平 和( )／開 発(○) D 未来への選択 … 歴史認識( )／市民意識( )／社会参加( )			
単元目標	・世界には様々な暮らしがあり、各国の課題である極めて貧しい世界を強いられている家庭や学校に行けない子供がいる事に気づく。 ・学校に行けない子供の生活が分かる資料から、不当な取引による貧困の過酷さを知り、改善するための「フェアトレード」という仕組みを知る。 ・「フェアトレード」と自分の関わり方を考え、自分にできる支援方法を原稿用紙にまとめる。			
単元の 評価規準	知識および技能	・フェアトレードの取り組みを知り、自分の生活に取り入れる方法や関り方を考え、資料をもとに自分にできる支援方法を原稿用紙にまとめることができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	・学校に行けない子供の生活が分かる資料から、不当な取引による貧困の過酷さを想像し、改善するためのフェアトレードという仕組みを活用するためにはどのように行動すれば良いかを考えることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・世界には様々な暮らしがあり、先進国や発展途上国など関係なく、各国の課題として極めて貧しい生活を強いられている家庭や、学校に行けない子供がいることに気づき、改善策としてフェアトレードという仕組みを活用して自分にできる支援方法を見つけようとする事ができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	・フェアトレードという取り組みを知るだけでなく、生活で活かすためにどうすれば良いかを考えることで、より身近に他国への支援の必要性を感じ、行動に移すため。 ・世界には様々な暮らしがあり、各国の課題である極めて貧しい世界を強いられている家庭や学校に行けない子供がいる事に気づくことで、どの国も助け合いの精神が必要であることに気づき、フェアトレードという仕組みを上手く自分の生活にも取り入れることで救うことができると気づくため。 ・海外と聞くと欧米文化を想像する児童が多く、ステレオタイプな見方に気づき、世界の課題はそれぞれの国だけの問題ではなく、各国が同じ悩みを持っていることを知り、お互いに助け合う精神を持つことが国際理解には重要だと考えるため。			

## [ 単元計画（全7時間） ]

時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	世界には様々な暮らしがあり、各国の課題である極めて貧しい世界を強いられている家庭や学校に行けない子供がいる事に気づくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「海外」の暮らしをイメージする。</li> <li>●日本・韓国・アメリカ・ネパール・ガーナの5か国の暮らしをイメージし、紹介する。</li> <li>●国によって違う様々な暮らしの様子があることに気づき、その中でも貧困の課題があることに着目する。</li> <li>●各国の「子供が子供らしく生活することができる国」の順位を伝える。</li> <li>●貧困課題を抱える家庭の子供が、学校に行くことができない現状があることについて知る。</li> <li>●貧困は連鎖することに気づく。【貧困の輪カード】</li> </ul>	パワーポイント  写真集「Where Children Sleep」  End of Childhood Index Ranking 2021
2	学校に行けない子供の生活が分かる資料から、不当な取引による貧困の過酷さを知ることができる。	<生産地の暮らしから見える物> <ul style="list-style-type: none"> <li>●好きなお菓子を聞く。【ポップコーン方式】</li> <li>●子供たちに身近なチョコレートの原材料であるカカオの生産地出身ゴットフレッドさんの生活を資料(ACEスマイルガーナプロジェクトホームページより)で見る。【分担読み】</li> <li>●「ものすごく大変な仕事をする小さな手／ゴットフレッド」を読む。</li> <li>●貧困の輪カードのように起こる負の連鎖防止方法を考える。</li> </ul>	パワーポイント
3	貧困問題を改善するための「フェアトレード」という仕組みを知り、身近にあるフェアトレード商品に気づくことができる。	<公正な取引> <ul style="list-style-type: none"> <li>●貧困の輪を断ち切るためにどうすれば良いかを考える。</li> <li>●フェアトレードという仕組みがあることを知る。</li> <li>●フェアトレードマークや身近にあるフェアトレード商品・国外(ネパール)のフェアトレード商品を実際に知る。</li> </ul>	パワーポイント
4	「フェアトレード」と自分の関わり方を考えることができる。	●フェアトレードの取り組みについて資料を基に考え、日本での実績をデータで読み取る。	フェアトレードジャパン資料
5	「フェアトレード」と自分の関わり方を考えることができる。	●フェアトレードの存在や仕組みをもっと日本でも知ってもらい、取り組みに参加してもらうためにどうすべきか。また、自分がどう行動するかを考える。	フェアトレードジャパン資料
6	「フェアトレード」に関して自分にできる支援方法を原稿用紙にまとめることができる。	●フェアトレードの存在や仕組みをもっと日本でも知ってもらい、取り組みに参加してもらうためにどうすべきか。また、自分がどう行動するかを考え原稿用紙にまとめる。	フェアトレードジャパン資料
7	「フェアトレード」に関して自分にできる支援方法を原稿用紙にまとめることができる。	●フェアトレードの存在や仕組みをもっと日本でも知ってもらい、取り組みに参加してもらうためにどうすべきか。また、自分がどう行動するかを考え原稿用紙にまとめる。	フェアトレードジャパン資料

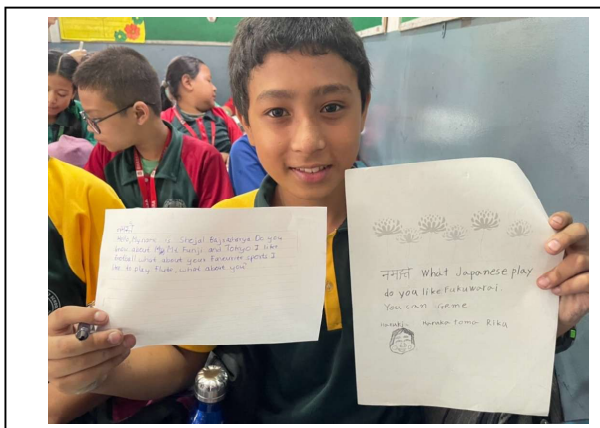
## [ 本時の展開 ( 1 時間目 ) ]

ねらい	・世界には様々な暮らしがあり、各国の課題である極めて貧しい世界を強いられている家庭や学校に行けない子供がいる事に気づくことができる。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
1	<p>●「海外」の暮らし(街並み・食事・家など)の様子をイメージする。</p> <p>●日本・韓国・アメリカ・ネパール・ガーナの5か国の暮らしをイメージし、①主な食事②主な街並み③子供とその子の子供部屋(写真集「Where Children Sleep」より)を紹介する。【ブレンストーミング】</p> <p>●国によって違う様々な暮らしの様子があることに気づき、その中でも貧困の課題があることに着目する。</p> <p>●韓国7・日本21・アメリカ43・ガーナ125・ネパール137の国と数を知る</p> <p>●End of Childhood Index Ranking 2021 ( THE TOUGHEST PLACES TO BE A CHILD より)掲載の順位の数字であることを知らせ、各国の「子供が子供らしく生活することができている国」の順位であることを伝える。【クイズ形式】</p> <p>●貧困課題を抱える家庭の子供が、学校に行くことができない現状があることについて知る。</p> <p>●貧困は連鎖することに気づく。【貧困の輪カード】</p>	<p>欧米諸国のイメージが出やすい。ここではそのまま進める。</p> <p>先進国から発展途上の国まで、イメージしやすい国を選び、この後の活動のため子供にフォーカスする。</p> <p>主に発展途上の国の部屋を見て、部屋数や家具等が十分でないことから貧しい生活と考える子供たちの意見を持たせたまま、数字を見せる。</p> <p>欧米諸国をイメージした際に、裕福であるという捉えをしていたが、実は貧困の問題を抱えており、それは国ごとの課題であり、世界の課題であり、私たち自身の課題であることに気づかせる。</p> <p>次回の＜生産地の暮らしから見える物＞で紹介するカカオの生産地出身ゴットフレッドさんの生活に繋げる。</p> <p>貧困の原因は連鎖しており、輪になる事をカードで考えさせる。</p>	<p>写真集「Where Children Sleep」</p> <p>End Of Childhood Index Ranking 2021 THE TOUGHEST PLACES TO BE A CHILD</p> <p>貧困の輪カード</p>
評価規準に基づく本時の評価	・世界には様々な暮らしがあり、先進国や発展途上国など関係なく、各国の課題として極めて貧しい生活を強いられている家庭や、学校に行けない子供がいることに気づくことができる。		

## 〔総括・まとめ〕

<b>学習方法および外部との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真集「Where Children Sleep」</li> <li>・End of Childhood Index Ranking 2021</li> <li>・フェアトレードジャパン 等資料の活用</li> </ul>
<b>学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年外国語[What country do you want to visit?] 発表のデモンストレーションとしてネパールの現状を伝える活動を行った。</li> <li>・4・5・6年生対象外国語クラブでネパール BOX を使用した異文化理解学習を行った。</li> <li>・OJT 研修として教職員に対してネパールと国際理解についての講座を行った。</li> </ul>
<b>苦労した点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールってどこ？と聞かれる所から始まるため、概要説明から話をする必要があった。</li> <li>・子供たちがフェアトレードを全く知らず、身近にあることすらも知らなかったため、どれほど良い効果のある取り組みかを実感させることが難しかった。</li> <li>・教職員に向けての研修では、ネパールや発展途上の国に対してのイメージから、現状とのギャップを知ってもらう事はできたが、そこから身近な生活の中での国際理解を考えてもらうことが難しかった。</li> </ul>
<b>改善点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールの国がどこに位置し、何が有名かを説明する必要がある点。</li> <li>・フェアトレードとはなにか。また、必要性を感じさせる授業づくりをする必要がある点。</li> <li>・国際理解の重要性を一緒に考え取り組むところまでする必要がある点。</li> </ul>
<b>成果が出た点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールを知ってもらうことで、日本との関りも深くあることを知ってもらうことができた。</li> <li>・フェアトレードの効果を実感してもらうために、まず生産地の貧困問題がどれほど重大であるのかをゴットフレッドさんの生活が分かる資料や、本人が想いを綴った詩を見せることで実感させることができた。</li> <li>・多国籍にルーツを持つ児童に寄り添う必要性を感じてもらうことができた。</li> </ul>
<b>学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ではフェアトレードが全然広まっていないことを知った。私も知らなかった。知らせるために商品棚にフェアトレードの説明を書いておけば手に取りやすくなると思う。(A児)</li> <li>・フェアトレードの活動を知って、授業後にコンビニにフェアトレードマークのついたチョコを見つけた。こんなところにあったのかと驚いた。(B児)</li> <li>・私は、フェアトレードを知らなかったけれど、好物のバナナやチョコが対象の商品にあったから、今度からは高くてもそれをおやつに買ってチョコバナナを作って食べようと思う。(C児)</li> </ul>
<b>授業者による自由記述</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解の必要性をネパールへ行って強く感じ、支援とは助けることではなく「助け合う事」であることを実感した。これを伝えられるように今後も考える活動を授業に取り入れていきたい。</li> <li>・フェアトレードを題材に実践を行ったが、支援の方法としてまだまだ自分たちの生活でできることがあるはずだと感じた。それを子供たちと共に見つけ、実践までを行いたい。</li> <li>・他人への興味、日本への興味、が薄れている昨今。海外への興味までたどり着けるように教科全体を通して子供たちへの指導を行っていきたい。</li> </ul>
<b>単元構想・実施における参考資料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困の輪 Poverty Trap [開発のための教育]</li> <li>・JICA 開発教育の意義と授業作りのポイント</li> <li>・身近なことから世界と私を考える授業</li> </ul>

## [ 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど) ]



▲ 外国語クラブの子供とネパールの小学生が手紙の交換



▲ 外国語 What country do you want to visit?でいきたい国をネパールで発表しようとする子どもたち



▲ ネパールの生活や小学校について解説



▲ ネパールの子どもたちと手紙の交流後英語に自信を持ち、海外の人に堂々と話しかける様子